

◇令和5年／2023年5月号 第105号◇



フジサンケイグループ

会 産経国際書会 報

SANKEI INTERNATIONAL SHO ASSOCIATION



令和5年度総会で挨拶をする高橋照弘新理事長。「従来の路線を継承し、会員の声を真摯に聞いて理事長としての責務を果たしていきたい」と抱負を述べ、風岡五城先生の後を継いで第6代理事長に就任しました。

新たな風を

産経新聞社
代表取締役会長 飯塚 浩彦



令和5年の新年度が幕を開けました。皆様ご存じの様に、今年は産経国際書会40周年の記念の年であり、多くの記念事業が開催されます。

3月14日に総括会議が行われ、その席上、理事長の交代を発表いたしました。

8年間の長きにわたり、理事長を務められた風岡五城先生が名誉理事長に就任され、高橋照弘理事長代行が新たに理事長に昇格いたします。

風岡先生には35回の記念事業、日台交流書道展の実現、そして後半はコロナ禍の厳しい中、書会の先頭に立って、まさに体を張って、書会のために尽くしていただきました。

令和2年、未知のウイルスが蔓延し、非常事態宣言が発令される中、37回展を開催するか中止するか瀬戸際で開催を選択した判断は本当に英断であったと思います。毎日展や読売展が中止となる中、産経展だけが開催をしたことで産経国際書会の存在感を一気に高めたと考えています。あらためて感謝申し上げます。

風岡先生には引き続き名誉理事長として、40周年事業を中心に書会をサポートしていただきます。

高橋新理事長におかれましては、書道家という一面のみならず、日本書道専門学校の指導者や経営者としての豊富な経験も生かしていただき、40周年事業の成功と目の前に山積した課題について、風岡前理事長の路線を継承しながらもご自身のカラーを発揮し、書道界に新たな風を起こしてほしいと思います。

そのほかにも、今口鷺外先生、原田圭泉先生が名誉顧問に、副理事長を務められた今田篤洞先生、岩浅写心先生、高木撫松先生には常任顧問に就任頂き、それぞれ一段高い立場から助言を頂ければ幸いです。

様々な記念事業の開催や賞の増加など内容の充実を図りながら、会員の高齢化や出品点数の増加などの課題に一つ一つ真摯に向き合い、書会が発展できるように新聞社も微力ながら取り組んで参ります。

引き続き、会員の皆様からのご支援を賜りますとともに益々のご健勝、ご活躍を心よりお祈りいたしまして、新年度の挨拶といたします。



産経国際書会
名誉理事長
風岡五城



産経国際書会
理事長
高橋照弘

これからも頑張れ、産経!

令和2年の春、コロナウイルス感染が拡大する中、第37回産経国際書展が開催できるのかどうか最大の危機を迎えました。悩み抜いた結果、審査さえ出来れば何とかできるのではないかと、審査会場を変更し、審査員も総括会議のメンバーに絞って行うことで難関をクリアすることが出来ました。皆様のご理解ご支援がなければとうてい実行不可能でした。出来るか出来ないかで迷うより、先ずどうしたら出来るかを考えることの大事さを学びました。

国際交流については、何と云っても台湾との交流展が心に残ります。飯塚浩彦会長自ら率先してご参加いただき、懇親会では大いに盛り上がり日台交流の絆を深めたばかりでなく、書会としての一体感も高まりました。また韓国書壇からの特別出品や、「書で結ぶ世界と日本」と題して各国の大使に本展への参加をいただいたことも忘れられません。

外向きなことでは、全日本書道連盟、日本書道文化協会、全国書美術振興会とのかかわりで、他の新聞社系の書団体とも共同歩調をとることが多くなってきました。産経も日本の書の伝統を守る大きな柱の一つであることを自覚して活動することが今後益々重要なことになるでしょう。頑張れ、産経。

理事長代行、副理事長の各先生方はじめ会員の皆様のご理解、ご支援のお蔭で今日を迎えることができました。衷心より厚く御礼申し上げます。

さらなる躍進を

このたび産経国際書会理事長を風岡先生の後任として仰せつかり大任の務めの重さを認識し責任をしっかりと果たしていきたいと考えています。風岡先生は理事長として8年もの長きに亘り書会発展の貢献に尽力されました。その功績は多大なるものがあります。

心より敬意を表するとともにご苦勞をご慰勞申し上げます。

産経国際書会を愛する情熱は誰にも負けないと自負しております。書会には解決しなくてはならない問題が大小様々あります。このことを考える時「任重くして道遠し」であります。前任の路線を継承しつつ会員諸氏の声を聴き、書会の更なる発展の道筋をつけ、汗をかいてまいります。風岡先生には従前同様ご指導下さることをお願い申し上げます。

人生百年といわれ、超高齢化社会に日本は入っています。少子化、人口減が社会に及ぼす影響は顕著に表れてきています。日本の書道界、当書会とても例外ではありません。会員増加は喫緊を要する課題です。方策の一つとして産経ファンを増やすことにあります。案内状を余すことなく有効に活用し会場に足を運んでいただくため出品者が今以上に広く友人知人への声掛けが必要となります。産経書展の個性豊かな囚われない多彩な表現を多くの人達に観ていただき、賛同者を入会へと繋ぐ流れを作ってゆくことが大事であります。

本年は40周年記念展です。更なる書会を躍進させるべく一致団結して記念展を成功させましょう。

令和 **5** 年 産経国際書会総会 開催



議事進行をする高橋照弘新理事長

令和5年度産経国際書会の第39期通常総会が4月20日、東京都千代田区の大手町サンケイプラザで開催されました。はじめに産経国際書会会長代行である伊藤富博産経新聞社事業本部長がこの日欠席の産経国際書会会長である飯塚浩彦産経新聞社会長からのメッセージを代読し「今年は書会創立40周年の記念の年を迎えます。様々な記念事業において、産経新聞社としても、更なる書会の充実をサポートしていきたい。」と挨拶がありました。また、冒頭、風岡五城先生から高橋照弘先生への理事長交代について触れ、風岡先生の長年の労をねぎらいました。



退任の挨拶をする風岡五城名誉理事長

その後、高橋照弘新理事長の進行で、議事録署名人に田島青谷、諸留大穹常務理事が選出され、38期事業、決算の報告があり、39期計画、予算などを審議、各議案とも満場一致で承認されました。

議案

1. 令和4年度・第38期(令和4年4月1日～令和5年3月31日)の事業報告
2. 令和4年度・第38期(令和4年4月1日～令和5年3月31日)の収支報告
3. 令和5年度・第39期(令和5年4月1日～令和6年3月31日)の事業計画
4. 令和5年度・第39期(令和5年4月1日～令和6年3月31日)の予算
5. 人事案件

第38期 事業報告

◆令和4年度総会

令和4年4月14日(木)、大手町サンケイプラザで総会を開催した。実際に会員が集まって開催したのは3年ぶり、51人の出席者があった(3年前は76人)。第37期の決算、事業報告の了承と第38期の予算、事業計画、人事などを承認した。

◆第39回産経国際書展

審査会 審査日 令和4年5月30日(月)～6月2日(木)
30日搬入、審査は3日間

会場 東京都立産業貿易センター台東館
6階展示場(東京・台東区)
審査員のべ54人、うち11人が特別選考委員。

展覧会 会期 令和4年8月14日(日)～21日(日)
7日間(8月15日は休館)

会場 東京都美術館 ロビー階及び1階第1、2、3、4展示室と2階第1、2展示室

作品数 5,521点(昨年5,280点)
※東京会場総展示数=2,463点
※使用する部屋数が2つ増えたため、全ての作品が通期展示、展示替えなし。

入場者 4,534人(昨年2,998人)

贈賞式 令和4年8月18日(木)、明治記念館「富士の間」

1部 13:00～14:00 公募、会友の受賞者 162人(昨年57人)出席

2部 15:00～16:00 無鑑査、審査会員の受賞者31人(昨年29人)出席

※2部終了後、上位特別賞受賞者11人と高円宮妃殿下との懇談会を行った。

【イベント】①初日14日(日)13:00からテーブルカットを行った。飯塚浩彦産経新聞社会長、竹澤玉鈴名誉顧問、風岡理事長の3人と特別展示に参加した韓国書壇代表団の高認識(ゴインスク)ガラムル・ハンゲル書会会長を迎えた4人が参加。

②揮毫会、ギャラリートーク、ワークショップなどイベントは行わなかった。

【特別展示】①特別色紙展=お題は「薬」と「氣」、応募は55点(昨年46点)

②韓国書壇・特集展示=昨年8点の展示だった韓国書壇の代表作家紹介は今年36点となった。韓国書芸は、漢字、ハンゲル書芸、文人画、篆刻、書刻(刻字)、モッグルシ(カリグラフィ)の6部門。書壇は、「韓国美術協会」「韓国書芸協会」「韓国書家協会」の3つの公募団体に集約されている。今回は、書壇の最高指導者や3団体の理事長と書芸6部門の会長、理事長が出席。また、代表団10人が8月17日から2泊

3日の日程で来日、本展会場を視察し、贈賞式に参加。日本側と交流を深めた。

③芸能人の書=中山秀征、松村雄基、藤田三保子、岡部まり

【モンゴル国大使館賞】昨年のペルー大使館友好賞に続き今年から新設。理事以上の役員から選出。第39回展は近藤豊泉専管理事が受賞

◆2022産経ジュニア書道コンクール

審査会 審査日 令和4年6月27日(月)

会場 東京都美術館 地下3階第2審査室A、B、第2作業室
審査員33人(実行委兼務8人)、実行委員3人
※審査後整理=6月28日(火)、29日(水)

展覧会 会期 令和4年8月14日(日)～21日(日)
7日間(8月15日は休館)

会場 東京都美術館 2階第3、4展示室

作品数 11,741点(昨年10,440点)
※使用する部屋数が1つ増えたため、全ての作品が通期展示、展示替えなし。

入場者 4,487人(昨年3,871人)

贈賞式 令和4年8月17日(水)11:00～16:00、東京都美術館講堂

3部構成として実施。いきいき賞、ジュニア賞、高校生部門と中学生以下特別賞との3つに分けて行った。各区分とも約40分で実施することができた。全ての贈賞終了後に「席書会」を実施。贈賞式出席者:いきいき賞41人、ジュニア賞38人、高校生14人、中学生以下特別賞11人

【席書会】高校生4人、中学生4人、小学生1人の計9人の上位入賞者が行った。

【ワークショップ】「筆と墨でうちわや半紙に字を書こう」令和4年8月16日(火)、19日(金)13:30～15:30、2階第3展示室奥16日は入場者自体が多く、参加者が多く用意した席が空くことがなかった。一方、19日は入場者も少なく、参加者も少なかった。

◆第39回産経国際書展 関西展

会期 令和4年8月24日(水)～28日(日)

会場 京都市京セラ美術館

作品数 411点 入場者数 1,530人

贈賞式 8月27日(土)、みやこめっせ地下1階大会議室(受賞者51人、合計約70人参加)

◆第39回産経国際書展 東北展

会期 令和4年9月13日(火)～18日(日)

会場 宮城県美術館

作品数 206点 入場者数 865人
贈賞式 9月18日(日)、ホテルメトロポリタン仙台
(受賞者24人、合計52人参加)

◆第39回産経国際書展 瀬戸内展
会期 令和4年9月27日(火)～10月2日(日)
会場 広島県立美術館
作品数 278点 入場者数 792人
贈賞式 10月1日(土)、ホテル広島ガーデンパレス
(受賞者28人、合計68人参加)

◆第39回産経国際書展 中部展
会期 令和4年11月15日(火)～20日(日)
会場 愛知県美術館ギャラリー
作品数 351点 入場者数832人
贈賞式・祝賀会 11月20日(日)、ホテル名古屋ガーデンパレス
(受賞者27人、祝賀会合計82人参加)

◆2022産経国際書会 秋期研修会
実施日 令和4年9月24日(土) 11:00～16:30
9月25日(日) 10:00～14:50
会場 すみだ産業会館サンライズホール
(丸井錦糸町店8階)
内容 24日午前 草書 松翁 臨「邢子愿千字文」
高橋照弘理事長代行
24日午後 楷書 光明皇后「樂毅論」
町山一祥副理事長
25日午前 行書 空海「風信帖」
松崎龍翠副理事長
25日午後 隸書 「漢簡」 風岡五城理事長

参加者数 24日(土)＝88人(会員64人、一般24人)
25日(日)＝109人(会員74人、一般35人)

◆令和4年度理事会
令和4年11月30日(水)、大手町サンケイプラザで51人が出席して理事会が開催された。主に令和5年度、40回記念展、書会創立40周年の記念行事などについて意見交換がなされ、事業の方向性について了承を得た。

◆第39回産経国際書展 新春展
大作下見検討会 令和4年9月22日(木)
国立新美術館 地下1階審査室
II(公募)審査 令和4年12月9日(金)
国立新美術館 地下1階審査室

会期 令和5年1月25日(水)～2月6日(月)
会場 国立新美術館
作品数 853点 入場者2,967人
大作 青木錦舟常務理事、及川扇翠専管理事、伊藤牙城理事、高橋峰月理事、宇野淳風(審査会員)、富岡桃翠(審査会員)の6人

テープカット 1月25日(水) 10:30
国立新美術館 2階展示室入口
齋藤香坡産経国際書会最高顧問、山下海堂最高顧問、竹澤玉鈴名誉顧問、風岡五城理事長、飯塚浩彦代表取締役会長の5人で行った。

贈賞式・祝賀会 2月2日(木) 16:00～18:00
明治記念館
※ギャラリートークは行わなかった。

第39期 事業計画

◆第40回記念産経国際書展 審査会
会期 令和5年5月31日(水)～6月2日(金)
会場 東京都立産業貿易センター台東館6階展示場
※5月30日(火)は作品搬入、懇親会はなし

◆2023ジュニア書道コンクール 審査会
会期 令和5年6月26日(月)※27、28日に作品整理
会場 東京都美術館
地下3階第2作業室B、審査室A、B

◆第40回記念産経国際書展
会期 令和5年8月14日(月)～20日(日)
会場 東京都美術館 ロビー階、1階第1室～第4室、2階第1、2室
贈賞式 8月18日(金)明治記念館 13:00～

◆2023ジュニア書道コンクール
会期 令和5年8月14日(月)～20日(日)
会場 東京都美術館 2階第3、4室
贈賞式 8月19日(土)東京都美術館講堂 11:00～

◆第40回記念産経国際書展 関西展
会期 令和5年8月30日(水)～9月3日(日)
会場 京都市京セラ美術館
贈賞式・祝賀会 9月3日(日)、リーガロイヤルホテル
京都 12:00～

◆第40回記念産経国際書展 東北展
会期 令和5年9月8日(金)～13日(水)
会場 せんだいメディアテーク
贈賞式・祝賀会 9月10日(日)、ホテルメトロポリタン
仙台 15:00～

◆第40回記念産経国際書展 瀬戸内展
会期 令和5年9月26日(火)～10月1日(日)
会場 広島県立美術館
贈賞式・祝賀会 9月30日(土)、広島ガーデンパレス
14:00～

◆第40回記念産経国際書展 中部展
会期 令和5年11月7日(火)～12日(日)
会場 愛知県美術館ギャラリー

贈賞式・祝賀会 11月12日(日)、ホテル名古屋ガーデンパレス 12:00～

◆第40回記念産経国際書展 四国展

会期 令和5年11月29日(水)～12月3日(日)

会場 愛媛県美術館

贈賞式・祝賀会 12月2日(土)、ANAクラウンプラザホテル松山 13:00～

◆令和5年度理事会

会期 令和5年12月7日(木) 14:00～

会場 大手町サンケイプラザ311・312号室

◆第40回記念産経国際書展 新春展

会期 令和6年1月24日(水)～2月5日(月)

会場 国立新美術館

贈賞式 2月5日(月)明治記念館 16:00～(予定)

第40回 記念展及び創立40周年記念 事業計画

◆第40回記念産経国際書展特別企画

◇産経国際書会 40年—そのはじまりと歩み—

展覧会 会期 8月14日(月)～20日(日) 7日間

会場 東京都美術館 ロビー階第1室

作品数 41点

内容 小川瓦木、國井誠海、十鳥霊石、林錦洞、山田松鶴ら産経国際書会を築いた書家の作品29点とその師である鈴木翠軒、田中真州、松本芳翠、上田桑鳩ら12人の書家の作品を展示し、産経国際書会の“40年”をたどる。

頒布 一般には、展覧会場、ネットにて税込み1,000円で頒布

◇「第40回記念産経国際書展四国展」

展覧会 会期 11月29日(水)～12月3日(日) 5日間

会場 愛媛県美術館 南館1階・2階

作品数 約300点

内容 第40回瀬戸内展をベースに四国在住の書家に重点を置いた巡回展。四国の書家の掘り起こしを目的として産経書会の幹部作家の作品も多数展示する予定。入場無料。

◇田中鳳柳コレクション「中国 明・清の書画名品展」

展覧会 会期 8月14日(月)～20日(日) 7日間

会場 東京都美術館 ロビー階第1室

作品数 41点

内容 2021年11月に逝去した田中鳳柳最高顧問が自らの書の研鑽のために蒐集した中国、明清時代の墨蹟名品の中から選りすぐりの名品41点を公開する。

◇未来に向かう産経国際書会—大作を中心に—(仮称)

展覧会 会期 令和6年4月20日(土)～4月24日(水) 5日間

会場 上野の森美術館

作品数 約70点

内容 上野の森美術館を全館使用し、大作を中心に展示する。役員、ベテランから次代の産経国際書会を担う書家まで、現在の産経国際書会の総力を結集し、未来の書道会にメッセージを發する展覧会。

◇「産経国際書会40年の歩み」

冊子の制作 発行日 令和5年8月14日(月)

配布 会員へ無料配布

第38期 決算と第39期 予算

税別

区分	第38期		第39期
	予算	実績	予算
収入	会費収入等	82,300,000	83,023,153
	事業費	15,500,000	17,062,358
支出	国際書展出品料	31,000,000	29,967,273
	その他運営費等	35,800,000	38,266,879
			38,600,000

会費収入

(単位:円)税別

区分	第38期決算	第39期予算
審査会員	48,508,636	50,000,000
無鑑査会員	21,364,545	22,000,000
会友	12,677,727	14,000,000
計	82,550,908	86,000,000

出品料

(単位:円)税別

区分	第38期決算	第39期予算
審査会員(3万円)	16,472,727	17,181,818
無鑑査会員(2万円)	8,909,091	9,090,909
会友(1.3万円)	4,585,455	4,727,273
計	29,967,273	31,000,000

第 39 期 産経国際書会役員

2023. 4 ~ ○=新任(敬称略 50音順)

【会 長】	飯塚 浩彦								
【最高顧問】	齋藤 香坡	村越 龍川	山下 海堂						
【会長代行】	伊藤 富博								
【名誉顧問】	生田 博子	石川 天瓦	○今口 鷺外	竹澤 玉鈴	手島たいりく				
	○原田 圭泉	平方 峰壽							
【常任顧問】	○今田 篤洞	○岩浅 写心	岩下 鳳堂	岩田 正直	上野 鶴陽				
	青陽 如雲	○高木 撫松	田村 政晴						
【顧 問】	小名 雪王	加藤 深流	白崎 菖汀	三上 錦水	望月 暁云				
【客員顧問】	齋藤 華秀	晋 鷗	高畑 常信	武田 厚	竹中 幸生				
	趙 白鶴	平方 研水	劉 洪友						
【参 与】	木住野 栄	久保 翠雪	○杉原 静花						
【名誉理事長】	○風岡 五城								
【理 事 長】	○高橋 照弘								
【理事長代行】	坂本 香心	渡邊 麗							
【副理事長】	○青木 錦舟	勝田 晃拓	金丸 鬼山	高頭 子翠	武富 明子				
	建部 恭子	正川 子葉	町山 一祥	松井 玲月	松崎 龍翠				
	村田 白葉	○山本 晴城							
【専務理事兼事務局長】		糸 雅人							
【事務局次長】	山口 邦泰	○杉本 弥美							
【事務局顧問】	○吉井 雄二								
【常務理事】	赤堀 翠柳	浅香 秀子	石井 理春	泉 芳秋	磯邊 哲舟				
	伊藤 春魁	伊東 玲翠	今井 翠泉	岩村 恵雲	上村 陽香				
	江戸 秀虹	遠藤 乾翠	大庭 清峰	大橋 玉樹	岡本 杏華				
	小川 艸岑	小名 雪揺	小野 亭良	○加藤 香誓	鎌田悠紀子				
	菊山 武士	○木村 大澤	黒田 浩芳	小杉 修史	後藤 教子				
	斎藤 秀翠	五月女紫映	眞田 朱燕	○菅原 有恒	鈴木 青苑				
	鈴木 博子	鈴木 祐洞	田島 青谷	戸叶 幽翠	長尾 佳風				
	永田 龍石	中野 和博	中村 雪鷺	西尾 秀誠	西川 万里				
	野崎 俊江	林 龍成	人見 恵風	堀江 宣久	諸留 大穹				
	吉野 富龍	渡邊 祥華	渡部美恵子						
【専管理事】	青柳 光草	安蒜 欣青	生田 佳葉	遠藤 香葉	及川 扇翠				
	老川 揺舟	大田 桂水	小野澤美香	○恩田 瑞貞	○梶谷 綾泉				
	北川 佳邑	北野 香春	小泉 玲洸	小林 紫雲	○小宮 求茜				
	近藤 豊泉	佐藤 志陽	篠原 秀朋	荘司 欣水	鈴木 曉昇				
	鈴木 愚山	鈴木 蓉春	諏訪 春蘭	高野 彩雲	武 翠泉				
	竹内 美翠	橘 圭子	○谷 蒼涯	鶴田 秀紅	富田 静流				
	中野 桂月	西尾 蘭畦	芳賀 祥緑	羽根田和香	久田 方琥				
	菱沼 東坡	平岡 雄峰	前田 聖峰	○松岡 篁月	眞々田壽扇				
	三橋 和泉	○宮川 彪子	三宅 秀紅	本橋 春景	○山下 翠風				

【理事】	石井 思水	伊藤 牙城	今井 軒石	岩田 和道	岩間 桃香		
	上田 智子	梅内 春藍	大川 詢子	大澤 芳洲	大段 栄泉		
	大場 映翠	大久 恵華	大八木雅山	岡村 公裕	刑部 翠風		
	小名 玉花	小野 左鶯	影山 瑤琴	加柴 律子	○加藤 松亭		
	加藤 竹藜	○木村 翠川	久米 麗鳳	小杉 秀花	五戸 光岳		
	小林 千津	今野 美晁	○齋藤 欣江	斎藤 修竹	齊藤 春欣		
	佐武 照聲	沈 彊	鈴木 蒼	鈴木 葉光	関根 史山		
	関根 春峰	瀬戸 桂舟	高橋 峰月	田中 龍渕	玉木 白雲		
	玉田 子翠	辻 和雲	長瀬 沙焱	中塚 龍華	中平 博子		
	長谷川明扇	早坂 喜伊	林 清方	平本 一恵	藤井 峯子		
	布施 夏翠	古谷 華楓	松岡 舟波	蓑口 草川	宮崎 礼子		
	宮平 翠玲	村越 弘鷹	室伏 雅箏	盛田 理泉	柳 鵬翔		
	山田 娃泉	山田 華萌	山田 秀園	○横田 玉華	横溝 景陽		
	吉本 麗竹	ラモス逸子	和田 玲砂	渡邊麻衣子	渡辺 龍泉		
	【監事】	河口 美櫻	柴山 枝峯	○荒井 裕水	有友 啓扇	飯田恵美子	
		【評議員】	愛澤 奏劍	阿久津由美	○石川 杏華	石川 溪舟	石川 秀苑
			井形 大正	石井 政子	伊藤 秀泉	○岩佐 登花	岩澤 翠汀
石川 由美			石黒 鴻羽	黄木 孝一	大木 翠晁	大毛 青舟	
植田 泰之			圓田 翠泉	大谷 芳雨	○大谷 煌水	岡崎 洋翠	
大田 美州			大竹 翠葉	小谷 翠谷	○小野 秀美	小野寺佐苗	
小笠原素心			岡林 御舟	加藤 石泉	加藤 遊墨	○門山 玲花	
梶井 香龍			加藤 桂谷	倉賀野静子	小久保里子	小嶋カズ子	
カレン紅鸞			河原畑静揚	定野 桂雪	佐藤マス子	○佐野麻理子	
小関 麗翠			坂井 光泉	○清水 畦花	清水 碧沙	末永 香雅	
澤村 春泉			篠原 寒鵬	鈴木 邦仙	須山 馨扇	高橋 翠石	
菅井 裳雲			杉原 和香	橘 黄華	○田中 香雪	田中 春畝	
高橋 雄喜			田嶋 華翠	津久井桂葉	土田 芳水	銅山 桂銅	
田端 香峰			塚原 桃虹	中村 蘭香	野尻 春華	波多野久美	
中井 悦子			中西 美蕙	林 弘子	日野 翔鳳	平野 恵亮	
羽根田菖風			○林 英道	藤井 玉暎	藤村 満恵	降幡 加津	
福島 恭子			福田 世英	星野 葉柳	堀川 梨華	正光 紅雲	
古谷 紫水	星野 秀水		松戸 清玲	○松永 葵心	松永 光鳳		
町田 武山	松岡 静仙	三宅 華子	宗像 翠龍	森田 香深			
水原 白姚	三谷 旭心	山口 了世	山崎 玉松	山村 萌扇			
八木 一華	矢崎 藤香	渡辺 敦子	渡邊 正峰				
山本てるみ	米山 石峯						

新役員からひとこと



今口鷲外名誉顧問

第1回の産経展が、ちょっと昔のことと思うのに、目出度くも40回を迎える。師を亡くしたことなど諸事情もあり他の公募展から、当時立ち上がったばかりの産経へ。些か心細い旅立ちであったのも今は懐かしい(30代であった)。振り返れば、産経では勉強させて頂いた、という思いが強い。錚々たる大先輩への挨拶や名刺配り。一方作品は拙い乍らも存分に好き勝手な冒険を楽しませて頂いていた。そんな風な自由さも産経の大きな魅力に違いない。

あの頃に比して、書の実用性・在り様も変わってきているという現状。ただ自身、周辺を見てつくづく日本人は文字を書するのが大好きなんだなァと思う。書くだけではなく文学、書に纏わる全てが私達の誇るべき文化であり、これを次代に繋げることの大切さを泌々と考えるまでに齢を重ねた、という事実^{おの}に感謝と戦き、そして何よりもの自戒を覚えるこの頃。折も折此度の人事に際し、身に余る重責に改めて来し方に思いを致したという次第である。



原田圭泉名誉顧問

産経国際書展40回記念のこの年に、名誉顧問を拜命、身の引きしめる思いです。長年臨泉会の会員共々、父佐々木泰南の「和を以って貴しとなす」を大切に、書会に携わって参りましたが、その姿勢を評価して頂いたのではと、感謝申し上げます。思い返しますと、今迄の記念展は勿論、米国展、三国展等の海外展、各地方展、研修会と各会の諸先生方と共に活動してきた事など懐かしく思っております。他方最高顧問でした母佐々木月花を失いしばらく落ち込んでいたり、コロナ禍でこの先どうなるのかと心配したりと続きましたが、この様な役職をいただき、老け込んではいられません。心新たに微力ながら、皆さまと共に記念展の成功と書会の発展に力を合わせて参りましょう。



今田篤洞常任顧問

2016年の総会で副理事長に選任されて以来7年間にわたり執行部の一員として書会の運営、重要事項の討議、決定、遂行に携われた事は貴重な経験でした。風岡名誉理事長をはじめ副理事長、事務局の皆さんに厚く御礼申し上げたいと思います。特に印象的な事は責任者として担当した「図録部」のことです。10人強のメンバーが生き生きと活動する様は魅力的でした。作業は暮れの仕事納めの日や真夏のお盆の時期と重なり、厳しい中にも拘わらず素晴らしいチームワークが発揮されました。

記念すべき第40回産経展を迎える前に執行部を離れることは残念ですが、以前から脳神経にかかわる病を患っており、昨年から急に障害が顕著化しています。このたび常任顧問に選任され、頭はまだ大丈夫ですので身体の動く限りお世話になった産経国際書会に恩返しをしたいと考えています。



岩浅写心常任顧問

今般副理事長を退任する事となりました。住田社長、齋藤理事長の時から随分永いこと在任しましたが、大した功績も残せず申し訳なく思っています。36回展から38回展迄、実行委員長に任命されましたが、コロナと云う未知の病いが日本中に蔓延し、37回展には事務局にオンブにダッコの状態でご本間に有難く思っています。38回展は極少数でしたが、勇気ある各部実行委員方々の協力で大過なく開催できて少し誇らしくも思いました。ただ残念だったのは、オリンピックで来日した外国人とワークショップをとの企画が備品を揃え乍ら実行できなかった事です。ともあれ在任中、多くの皆様に良くしていただき感謝のほかありません、ありがとうございました。常任顧問になりますが引き続きよろしくお願い申し上げます。



高木撫松常任顧問

この度常任顧問を拝命いたしました。副理事長時代は、東京で開催されるオリンピックの時期に合わせて企画された「書で結ぶ世界と日本」と云うスローガンのもと日本の書を広め、紹介する仕事に就いていました。ご縁の出来た大使館へ行き、まず大使や大使夫人に筆を持って頂き、日本の言葉や好きな母国の文字を書作品にする体験をしていただきました。各国の大使の方々が楽しそうに、真剣に取り組み作品に仕上げていく姿は今も忘れられません。どこの国の大使館でも歓迎して頂きましたが、特にトルコの大使館は、思い出があり何度も伺う機会をいただいて貴重な体験となりました。心より感謝申し上げます。

今年、産経国際書展は40回記念を迎えます。書会が益々充実していかれます様にご祈念申し上げます。そして書に心静かに向い合える世界平和を心よりお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



青木錦舟副理事長

この度副理事長という大役を思いもかけず拝命し、任の重さに身も心も引き締まる思いです。社中しか知らなかった私を山下海堂最高顧問が産経国際書展への道をつけて下さり、高木撫松常任顧問、本橋春景専管理事と共に海游舎の一員として歩めた事、そして図録部では今田篤洞常任顧問やチームの皆さんと心を合わせて仕事をさせて頂けた事等、本当に多くの学びを得て参りました。この感謝の思いを少しでもお返し出来る様に微力ではありますが、誠実に力を尽して参ります。本年は40周年記念の年、諸先輩方が大切に育み繋いで下さったバトンを次の世代の方々により良い形でお渡しする様に皆様のお力を頂きながら努めたく存じます。何卒よろしくお導きの程、お願い申し上げます。



山本晴城副理事長

この度副理事長を拝命いたしました。産経国際書会発足当初より出品させて頂き、今の私は、産経国際書展にて育てて頂いたと言っても過言ではありません。産経の理念4Cを厳守し、産経展の魅力を発信し、産経国際書会の土台を確固とすることが大切かと思います。いよいよコロナ規制も緩和され、新たなスタート台に立ちます。今年は40回展を迎えます。会員皆様方と一致団結をし、成功へと導きたいと願っております。今回の昇格にあたり、ひとえに幹部諸先生、書会事務局の皆様、会員皆様のご支援の賜物と心より感謝申し上げます。最後に、浅学非才のため至らぬ点も多く、ご迷惑をおかけしますが、皆様のお力添えを頂戴しながら書会発展のため尽くしてまいり所存です。変わらぬご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

新しく審査会員になられた方

有賀瑚風 石橋玉葉 石元城軒 大河原紫舟 川口志満子 川渕暁華 小祝美鴻 齋藤雅貴 阪田佳凜
笹野美智子 佐藤小菊 佐 那 鈴木雪華 須田紀泉 高津佳代子 田中秀穂 田中眞由美 外山錦紅
中根静流 西島良祐 松尾健太 村山蛭泉 本山鈴翠 山崎佳秀 山崎翠嵐 吉田早織 吉田 悟
連 鈴然

新しく無鑑査会員になられた方

足立道代 安部皓月 新井桃坡 猪原 忍 上田秀曠 上田尾桜香 大塚白聲 大峠 仁 岡坂彩道
尾上琴舟 加藤信和 栗原昇蘭 小久保撞文 後藤仙龍 佐田楊苑 塩澤東江 品田敦子 澁谷心水
島田千速 白鷺富州 新宮紫堇 杉浦凜昇 須崎恵石 関 瑞泉 津田玉華 角田穂香 寺門綾香
中川嶺泉 中村玉蘭 西川遷石 野呂トヨ子 原田貴世 東浦暁舜 福田悦子 プラウツ京美 増田恵実子
町田曠道 松下加昇 松橋艸路 三島暁翠 武藤久美子 森川泰泉 山崎恵萌 吉岡松龍 吉原輝舟
米津洋子 和田悠粹 和根崎真美

新しく会友になられた方

青山貴司子 安達静波 新井香園 荒尾蓉月 五十嵐草皐 池田洋珠 石田七帆 泉 學海 市川優花
市原澄子 市村和子 伊藤一美 伊藤蒼苑 伊藤芳翠 稲見恵李 乾 翠鳳 井上典枝 岩田萌粋
植西美侑 大内城翠 大木桂華 大倉光風 大須賀郷桜 太田春麗 大野修克 大峽白花 小笠原玉玲
小笠原玉径 岡田知則 岡本順子 小高美泉 小野 健 勝田幸子 加藤才雅 金坂翠香 川上青舟
川崎晃豊 川崎朝子 河村春璃 木村志剛 栗原知津美 黒澤姫扇 後藤春麗 後藤正子 小峰雪韻
金剛琢蒼 齋川龍水 齊藤玉扇 坂本蒼榮 坂本蒼月 坂元雅子 佐藤幸美 佐藤良子 佐藤玲華
佐原芝翠 澤渡鶴音 塩田香風 白川鼎心 杉本葉苑 鈴木久江 鈴木琳明 高瀬美斗 高橋貴鳳
高橋里奈 田中瑛恵 ダフィー美香 津村華苑 鶴淵雅子 手代木きよ子 寺野春暁 東福望紅 富田英美
鳥居貴子 長瀬有里子 中野輝正 西森深仙 根本彩雅 萩原久華 橋本煌風 橋本粋蓮 橋本 妙
長谷川祥苑 波多野千瑛 林由紀子 林寄義信 原口玉燕 針生光扇 深川秀鳳 深松華夢 福井清苑
福島江水 古川聡美 間瀬貴文 松尾大雅 松田湖風 松本和恵 三木飛香 道下清扇 三井翠扇
南 翠澄 宮澤南里 三與木明子 村田康子 茂木綵霞 諸星 睦 矢崎 花 山口彩苑 山崎鈴悠
山下翔風 山根まどか 山本龍子 横田明梨 渡瀬大麦 渡邊幹山 渡邊麻衣子

第40 記念 産経国際書展実行委員会

- 【実行委員長】 高橋照弘
 【審査部】 本部長 村田白葉
 漢字部 部長 吉野富龍 副部長 本橋春景
 委員 石川晴空、菅井裳雲、十亀紫風、横溝景陽
 かな、篆刻・刻字、臨書部 部長 諸留大穹
 委員 進藤栄峰、土田芳水、松岡篁月、宮川彪子
 現代書部 部長 西川万里
 委員 恩田瑞貞、小杉秀花、早坂喜伊、ラモス逸子
 【搬出部】 部長 磯邊哲舟 副部長 伊東玲翠
 委員 梶谷綾泉、門山玲花、神谷映水、塚原桃虹、村山蛭泉、矢野春潮
 【陳列部】 部長 山本晴城 副部長 永田龍石、渡邊祥華
 委員 阿久津由美、安蒜欣青、泉芳秋、伊藤春魁、老川揺舟、大場映翠、岡村公裕、加藤松亭、
 五戸光岳、柴山枝峯、鈴木曉昇、鈴木蓉春、関根史山、中野和博、林龍成
 【図録部】 部長 青木錦舟 副部長 岩村恵雲
 委員 大久恵華、恩田瑞貞、久米麗鳳、諏訪春蘭、高橋峰月、武翠泉、中村蘭香、村山蛭泉
 【東京部会】 部長 武富明子 副部長 黒田浩芳
 委員 岩間桃香、久米麗鳳、関根春峰、平本一恵、山下翠風
 【東北展】 顧問 田村政晴 実行委員長 松崎龍翠 事務局長 建部恭子
 実行委員 大橋玉樹、小嶋カズ子、五戸光岳、鈴木葉光、芳賀祥緑、宮崎礼子、渡部美恵子、
 渡辺龍泉
 【中部展】 顧問 村越龍川、風岡五城 実行委員長 村田白葉
 副実行委員長 勝田晃拓、山本晴城、渡邊祥華
 実行委員 赤堀翠柳、磯邊哲舟、伊藤春魁、老川揺舟、大場映翠、岡本杏華、刑部翠風、
 菊山武士、木村大澤、小泉玲洸、佐武照聲、田中龍淵、村越弘鷹、和田玲砂
 【関西展】 顧問 平方峰壽、今口鷺外 実行委員長 松井玲月
 副実行委員長 正川子葉
 実行委員 小野亭良、長尾佳風、中村雪鷺、久田方琥、西尾蘭畦、篠原秀朋、生田佳葉、
 竹内美翠、上田智子、加藤竹黎、山田秀園、山田娃泉、柳鳳翔、山口了世
 【瀬戸内展】 実行委員長 大庭清峰 副実行委員長 上村陽香
 実行委員 大田桂水、吉本麗竹、石井思水、平岡雄峰、大段栄泉、松岡舟波、三宅秀紅、
 鈴木蒼、藤井峯子、圓田翠泉、田中春畝、曾根小徑、田中吳峰、植木由樹子、
 美之口琴晴
 【四国展】 顧問 風岡五城、大庭清峰、渡邊正峰 実行委員長 平岡雄峰
 副実行委員長 田中吳峰
 実行委員 大段栄泉、中平博子、橘黄華、石元城軒、曾根小徑、高松紅真、別府桂苑、
 宮崎雅峰、久保杉峰、美之口琴晴、毛利恵華

第40 回記念 産経国際書展特別選考委員・審査員

- 特別選考委員 石川天瓦、今口鷺外、岩下鳳堂、岩田正直、風岡五城、笠嶋忠幸、金丸鬼山、坂本香心、竹澤
 玉鈴、田村政晴、手島たいりく、富田淳、原田圭泉、村越龍川、山下海堂、劉作勝、渡邊麗
 ●漢字 青木錦舟、新井瑞鳳、大庭清峰、勝田晃拓、眞田朱燕、鈴木曉昇、須田瑞兆、鶴田秀紅、永田龍
 石、平岡雄峰、古谷華楓、前田恵泉、前田聖峰、村越弘鷹、山本晴城
 ●かな 伊藤春魁、河原畑静揚、齊藤春欣、谷蒼涯、長尾佳風、中村雪鷺
 ●現代書 及川扇翠、加柴律子、河口美櫻、倉賀野静子、作村光風、鈴木蓉春、高頭子翠、富田静流、
 久田方琥、正川子葉、松井玲月、三宅秀紅、渡邊麻衣子
 ●篆刻・刻字 岩浅写心、風岡五城、高橋照弘
 ●臨書 今井翠泉、武富明子、林清方、町山一祥、松崎龍翠
 ●U23 梅田ちか子、江戸秀虹、鎌田悠紀子、高野彩雲、建部恭子
 ※外部審査員 特別選考委員＝笠嶋忠幸(出光美術館学芸部次長)
 富田淳(東京国立博物館副館長)
 劉作勝(愛知学院大学教授)

第39回 産経国際書展 新春展



第39回新春展を終えて

東京部会部長 副理事長 武富明子

令和5年の1月25日から2月6日まで新春展が開催されました。連日厳しい寒さが続いていたにも拘わらず、前回の時と大きく違ったことは、ご来館者がとても多かったことです。初日は、飯塚浩彦産経新聞社代表取締役会長、齋藤香坡・山下海堂最高顧問、竹澤玉鈴名誉顧問、風岡五城名誉理事長の5人のテープカットにより、華やかに幕が開きました。

今年の会場風景は第6室に大作が6点飾られて新春展ならではの雰囲気が出ていました。また新春展Ⅱの公募・会友の部屋は、一部が二段掛けになりましたが、見応えのある力作が数多く出品されていました。いつにも増して、書会の若い世代の発展に期待を抱かせてくれました。

2月2日は明治記念館で、贈賞式のあと久しぶりに祝賀会も取り行われました。一時のコロナ禍の状況から一歩先に進めました。北海道や高知からの受賞者は、登壇して賞状やトロフィーを手にとると、感慨も深く受賞の実感が湧き、更に頑張ろうと決意を新たにしたいと仰っていました。こうした一つ一つの行事がとても大切なのだと感じました。

次は夏の本展40回記念展に向けて、皆様には心と力を籠めた作品をご出品戴き立派な記念展にしたいものです。

この度も東京部会と会員の方々には、受付担当業務お疲れさまでした。厳寒の中、ご来場下さった皆様にも感謝と共に心から厚く御礼を申し上げます。



3年ぶりに行われたテープカット



代表展会場



大作を臨む



新春展Ⅱ会場

ようやくコロナ禍が収束に向かい、3年ぶりに落ち着きを取り戻した中で「第39回産経国際書展新春展」(1/25~2/6、国立新美術館)が行われました。12日間の会期中、昨年の1.5倍の2,967人の来場者で賑わいました。

産経国際書会の役員による代表展は4点の大作を含む195点が出品されました。審査会員・無鑑査会員が出品する新春展Ⅰには193点が出品されています。会友と、一般を対象とした公募部門である新春展Ⅱには467点の力作が寄せられ、会友奨励賞6点、産経新聞社賞5点、奨励賞37点が受賞の栄誉に輝きました。出品数は昨年に比べてほぼ変わりませんでした。大作は青木錦舟副理事長のかな、及川扇翠専管理事の千字文、伊藤牙城理事の漢字、高橋峰月理事の漢字、宇野淳風さん(審査会員)の現代書、富岡桃翠さん(審査会員)の現代書の6点を展示。

2日(木)は、明治記念館で贈賞式・祝賀会を行いました。受賞者29人が参加、賞状とトロフィーを手渡しました。また、その後の祝賀会では約70人が出席し、久しぶりに対面での会話を楽しんでいました。(事務局)

39回 産経国際書展新春展 贈賞式・祝賀



産経新聞社賞受賞の皆さん

39回 産経国際書展新春展 贈賞式・祝賀



会友奨励賞受賞の皆さん

39回 産経国際書展新春展 贈賞式・祝賀会



奨励賞受賞の皆さん

39回 産経国際書展新春展 贈賞式・祝賀



奨励賞受賞の皆さん

39回 産経国際書展新春展 贈賞式・祝賀



奨励賞受賞の皆さん

39回 産経国際書展新春展 贈賞式・祝賀



奨励賞受賞の皆さん

菽水書人社

林清方

謙慎書道会創設者の一人でもあった林祖洞が主宰しておりました「書道共励会」を祖洞亡き後、二代目会長林錦洞が引き継ぎ、昭和55年に「菽水(しゆくすい)書人社」と改名して現在に至ります。錦洞は浄土宗の僧侶でもあり菽水はあざなでもあります。浄土宗の開祖である法然上人の生涯を描いた絵巻物、国宝「法然上人絵伝」の中に「晨昏の禮をいたし水菽の孝に勤むべし」という一節があり、これは「朝夕に礼を尽くし、自分は水と豆のような粗末な食事をしてでも親孝行に勤めなさい」という意味であり、ここから菽水という言葉が好み会の名称にもしたものです。

錦洞は産経国際書会創設者の一人でもあり、昭和61年に初代理事長に就任いたしました。本年8月には産経国際書展は第40回を迎えることとなりますが、これも書会を運営されてこられた皆様をはじめ諸先生方のご尽力の賜と感謝致します。

現在、会員の指導は産経国際書会顧問の三上

錦水先生と常任顧問の今田篤洞先生の両名により行われており、産経国際書展新春展並びに産経国際書展への出品と毎年3月銀座で開催される社中展を目標に錬成を重ねています。

新型コロナウイルスによりここ数年は新年会や親睦旅行なども開催できませんでしたが落ち着きましたら是非再開したいと思います。

昨年の第39回産経国際書展では今田篤洞先生が内閣総理大臣賞を受賞され、会員にとりましても大変喜ばしい出来事でした。丁度20年前、産経新聞創設70周年の時でしたが、錦洞も同じ賞を受賞しており誠に感慨深いものがあります。本年3月銀座かねまつホールにて開催しました社中展には今田先生の受賞作品も展示され沢山の皆様にご高覧いただきました。

さて書道人口の減少や書会の高齢化などこれからの書道界には問題も山積しておりますが、小社も先師の思いを引き継ぎ今後も会員一同精進してまいりたいと思います。



銀座かねまつホールでの社中展



今田先生と慶應書道会のお仲間(後方が受賞作品)



毎年林錦洞の遺墨も展示される



三上先生教場での様子

「第40回記念産経国際書展」特別色紙展の募集

この特別色紙展は第21回産経国際書展からはじまり今回で15回目となります。

高円宮妃久子殿下から、いつまでも無理なく書に楽しく取り組んでいただけるようにという思いで、毎回御題を下賜していただいております。

下記の要項にて実施いたしますので、資格のある先生方は奮ってご出品ください。

御 題	「開」あるいは「尊」どちらかを選んでください。
展示場所	東京都美術館ロビー階(予定)
期 間	令和5年8月14日(月)～20日(日)
作品体裁	色紙(273mm×243mm) ※数ミリの誤差はかまいません。
出 品 料	無料
出品資格	80歳以上の会員。但し本展出品者に限ります。 ※会友以上、昭和18年以前(18年生まれは含む)に生まれた先生
締 切	令和5年6月2日(金) 必着
応 募	作品に出品票を添えて、搬入先まで直接お申し込み下さい。
搬 入 先	藤和額装(株) 〒234-0054 神奈川県横浜市港南区港南台7-51-12 TEL045(833)5273 FAX045(833)5275

◎応募いただいた作品は額装して東京本展に展示します(額装代は書会負担)

◎各地方展へは当該地方在住者の作品を展示します。 ◎作品は展覧会図録に掲載します。

◎作品は展覧会終了後、額装のままご返却いたします。

【問合せ】産経国際書会事務局 TEL03(3275)8902 FAX03(3275)8974

「第40回記念産経国際書会新春展」大作の募集

産経新春展の“顔”として定着してきた大作。

産経国際書会を代表する力溢れる大作の募集を行います。出品資格を満たせばどなたでも出品は可能ですが、大作は産経国際書会全体の力量が問われます。

自薦、他薦ともに下見会を行います。

出品資格 無鑑査以上

応募締切 8月31日(木)

応募数 5点(最大7点まで)

下見日 9月中旬予定

寸法 4×4m以内

※下見会では、作品に関してアドバイスをを行い、時には書き直しなどをお願いする場合があります。作品は下見日までに表具店へ搬入を願います。応募は書会事務局までご連絡ください。出品料は5万円、表具代1点10万円まで補助します。但し、6点の場合は8万円、7点の場合は7万円までとします。

各会書展お知らせ(産経新聞社後援)〈令和5年6月～9月〉

展覧会名	会期	会場	社中名	代表
第13回青成会書展	6月1日(木)～6月4日(日)	銀座大黒屋ギャラリー	青成会	木住野栄
現代書アート 三人展	6月3日(土)～6月4日(日)	大徳寺 黄梅院		諸留大穹
第48回梓書道会展	6月10日(土)～6月11日(日)	タワーホール船堀	梓書道会	市原蘇水
第57回書峰展	6月24日(土)～6月25日(日)	じばさんセンター(埼玉県秩父郡)	書峰書道会	田島青谷
2023 臨泉会選抜小品展	6月27日(火)～7月2日(日)	銀座鳩居堂画廊	臨泉会	原田圭泉
第17回照葉会書展	7月5日(水)～7月9日(日)	川越市立美術館 市民ギャラリー	照葉会	竹澤玉鈴
第8回ゼロ書展	8月16日(水)～8月20日(日)	東京交通会館ゴールドサロン	ゼロ書展事務局	
第49回宏道書展	8月22日(火)～8月27日(日)	名古屋電気文化会館ギャラリー	宏道書会	山本晴城
第45回墨農書道会展“墨の祭り”	8月25日(金)～8月28日(月)	埼玉会館	墨農書道会	岩田正直
第52回墨林綜合書展・学生墨林綜合書展	9月1日(金)～9月7日(木)	東京都美術館	墨林書道院	遠藤乾翠
groupF 2023展 vol.6 京都 ～新たな可能性を求めて～	9月8日(金)～9月10日(日)	堀川御池ギャラリー	groupF	井上空咲
墨色のビジュアル二人展	【銀座展】 9月12日(火)～9月17日(日)	銀座鳩居堂画廊		小川艸岑 小宮求茜
	【鎌倉展】 12月22日(金)～12月27日(水)	鎌倉芸術館ギャラリー		
第38回全国臨書模刻展	9月22日(金)～9月24日(日)	埼玉会館	心芸墨美作家協会	岩浅写心
松崎龍翠作品展	9月22日(金)～9月26日(火)	有楽町朝日ギャラリー	煌心書道会	松崎龍翠

書展 トピックス

現代書アート三人展「時の流れを感じて」

諸留大穹

●会期 12月17日(土)～18日(日) ●会場 大徳寺 黄梅院

厳寒の中での展覧、庫裡での揮毫となりました。信長や秀吉更に千利休の茶道を踏まえての存在は強く我々の前に立ちほだかり負けそうになる心との戦いの日々でした。「あるがままに…」との太玄和尚様の言葉に支えられた第1回展を無事に終了致しました。歴史あるお寺と現代書アートとの融合は続きます。応援いただきました皆様に深く感謝申し上げます。



利根川秀佳個展

●会期 4月4日(火)～9日(日) ●会場 好文画廊 利根川秀佳



初めての個展を開催致しました。今回のコンセプトは、誰にでも読める字を書く事と、言葉を様々な書体で表現する事でした。書家として、お客様がどのような書に興味を持たれるのか、そして観ていただく為にはどのような作品を書いていけば良いのか、深く考えさせられた初個展となりました。コロナ禍でしたが、古希展を開催しまして楷行草隸書と刻書。かなは屏風に百人一首を書いてみました。生徒さん達の作品も好評で誰にでも読める調和体は特に喜んでいただいたようです。次は書道教室50周年を目指して頑張りたいと思います。

第11回あんばんの会とその仲間たち書展

青木錦舟

●会期 4月23日(日)～29日(土)
●会場 東京交通会館 ゴールドサロン

書展には似合わぬネーミングも35年経つと愛される様になりました。今展は6才から96才まで、始めて作品に取り組んだ人も含め23名44点の展観となり、拙くも思いのこもった作品ばかりでした。合同作品「日本の色の名」も多くの方から嬉しい感想を頂き感謝に堪えません。御来場に心より御礼申し上げます。



いろは蒼心展vol.2

谷蒼涯

●会期 4月27日(木)～30日(日)
●会場 東京芸術劇場 アトリエーエスト

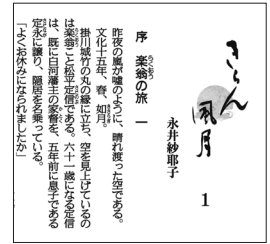
東京芸術劇場にて、私塾(蒼心会)の書道展を開催した。今回は小作品を中心に53人57点の出品となった。初心者からベテランまでそれぞれが思いを込めて制作した。料紙に凝った仮名作品、読める安心感のある現代書、一字書から多字数までそれぞれが挑戦した漢字作品。楽しく鑑賞して頂ける作品展になったと思う。

アラカルト

「きらん風月」を揮毫

今年1月から産経新聞朝刊で連載が始まった歴史小説「きらん風月」の題字を風岡五城名誉理事長が揮毫しました。直木賞候補にもなった時代小説界の新鋭、永井紗弥子さんが、数多の読本や絵画を残した江戸時代後期の戯作者、栗杖亭鬼卯の生涯に取り組んでいます。風岡先生の題字は、洒脱でありながら、誰もが読めるものに仕上がりました。

ぜひ、連載をお読みください。



産経国際書会創立40周年を祝う

産経国際書会の創立40周年を祝して自詠自書を実践する菅原有恒常務理事(全日本漢詩連盟相談役、清真会理事長)が漢詩を作成、作品に仕立てて第40回記念展に出品します。Clear=清潔、Clean=明朗、Creative=創造(創生)、Character=品格といった書会基本理念4Cをすべて詠み込みました。夏の本展を楽しみにお待ちください。

賀産経国際書会設立四十周年 昭和甲子令和卯 藝術高揚隣國親 清潔明知斯理念 創生品格是精神 展觀萬點恆爭席 斯界卅年常問津 鴻鶴如飛龍虎踞 産経書法可維新	産経国際書会設立四十周年を賀す 昭和甲子より令和(癸)卯へ 芸術は高揚 隣国と親しむ 清潔明知 斯れ理念 創生品格 是れ精神 展觀萬点 恒に席を争ひ 斯界卅年 常に津を問ふ 鴻鶴の飛ぶ如く竜虎の踞るごとく 産経の書法 維新あるべし
-------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

書道家が題材のドラマが放映

7月期のフジテレビ系連続ドラマで書道家が題材の「ばらかもん」がスタート(水曜日22:00から)します。孤高の青年書道家が長崎・五島列島で成長を遂げるハートフルコメディで、現在NHKの大河ドラマなどでも活躍中の注目の若手俳優・杉野遥亮が主役の青年書道家を演じます。そして、鈴木曉昇専管理事(東西書芸会会長)が本ドラマの書道指導を担当されます。

ぜひ、楽しみにご覧ください。

「唐代女性詩人」を深掘り

臨泉会の横田玉華理事は、早期退職後に大学、大学院で中国古典文学を学び、博士号(人文科学)を取得、これまで研究されることが少なかった唐代の女性詩人の研究を続けてきました。このたび唐代の女性詩人4人についての研究成果をまとめた「唐代女性詩人研究序説—上官昭容、李冶、薛濤、魚玄機と詩作」(汲古書院、¥8,250)を上梓。

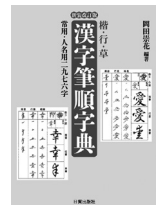
ご興味のある方はぜひお手に取ってみてください。



書のお供、「漢字筆順字典」

日本書蒼院の岡田崇花(審査会員)さんが、2014年出版「楷・行・草 漢字筆順字典」の新装改訂版を刊行(日貿出版社、¥3,960)。累計15,900部発行のロングセラーで、今回は新改訂の常用漢字と人名漢字2976字を掲載、三書体を筆ペンとペンで書き、さらに三書の筆順をペン書きで併催。美文字ブームをけん引した筆者の辞書は使いやすいと評判です。

書作のお供にいかがでしょう。



追悼

次の先生が黄泉につかれました。
本会での活躍とご指導ご鞭撻を賜りましたことに厚く御礼申し上げますとともに、
心よりご冥福をお祈り申し上げます。合掌。(敬称略)

常任顧問 宮崎春華(令和4年12月) 会友 仙石清堂(令和5年3月)

編集後記

桜の散りゆく季節を見送り、新緑燃える5月を迎えました。コロナ禍でマスクも個人の判断ではずすことも可能になり、少しずつ落ち着きを取り戻しつつあるように感じられるこの頃です。

第39回産経国際書展も滞ることなく開催され、入場者数増もあり、ジュニア展につきましては出品者数11741点と活況を呈しました。

書会は40回展に向けての記念展として多数の行事が発表されました。

①産経国際書会40年—そのはじまりと歩み—

書会の創設、発展に貢献された先生方と影響を与えた書家を紹介

②田中鳳柳先生のコレクション「中国 明・清の書画名品展」

めったにお目にかかれない貴重な名品揃いです。

③「産経国際書会の40年の歩み」小冊子制作

④第40回記念四国展の開催

書会与皆様との大々的な連繫を深め、一体となった協力によって産経展の特色を発揮し、発展してゆくことを願ってやみません。

これを機に更なる躍進を目指して頑張ってください。

(高頭子翠)

(会報編集委員／高頭子翠、小川艸岑、影山瑤琴、早坂喜伊、渡邊麻衣子)

表紙：題字揮毫は風岡五城名誉理事長

編集・発行 令和5年5月号

〒100-8079 東京都千代田区大手町1-7-2

産経新聞社事業本部内

産経国際書会事務局

TEL:03(3275)8902 FAX:03(3275)8974

email : shokai@sankei.co.jp

<http://sankei-shokai.jp/>

<https://www.facebook.com/sankeishokai>

お願い

会員の皆様に住所・電話番号等の変更があった場合には事務局までご連絡くださいますよう、また、各会書展のお知らせは早めにお願ひ致します。